

Letters From Muroran IT

No.
52



表紙「平成27年7月4日 第31回蘭岳コンサート」

CONTENTS

〈特集〉室蘭工大での女子学生の生活	… 01
らんらんプロジェクト	… 02
研究紹介	… 03
室蘭工大キャリア・サポート・センター 求められる人材と社会を結ぶサポート拠点	… 04
TOPICS	… 05

特集



女子学生に 学校生活のことを 聞いてみました！

工学部は女子が少ない、室蘭での暮らしはいったいどうなんだろうetc…。

受験生はいろいろな不安を感じるかもしれません。そこで実際に学校生活がどのようなものなのか、男女共同参画推進室長の木幡行宏教授から、学校生活のことをいろいろと聞いていただきました。



学校での勉強について

- 木 本日はよろしくお願ひします。早速ですが二人の学科とコースを教えてください。
- 竹 建築社会基盤系学科の建築学コースです。
- 小 情報電子工学系学科の情報システム学コースです。
- 木 そもそも、工学部を志望した理由を教えてください。
- 竹 建築の現場を見たときに、建物を建てるということにすごく魅かれたからです。当時、物理の授業が楽しかったのもありますが、建築自体にとっても興味がありました。
- 小 私はもともと数学や物理が得意だったので、理系に進みました。進路を考える頃はコンピュータやプログラミングに興味があり、それで地元の登別に近い室工大に進学しようと思ひました。
- 木 入学した後の勉強はどうでしたか？
- 竹 大変でしたが、行きたいコースがあったので、頑張りました。
- 小 回路よりもプログラミングに興味があったので、そこを重点的に勉強しました。
- 木 なるほど。それで二人とも行きたいコースに進んだというわけですね。周りの女子学生の様子はどうでしたか
- 小 私の周りは真面目な子が多いのでみんなしっかり勉強していましたね。それでいて課外活動も活発に行っている、両立できている子が多かったです。インターンシップに参加する人数は情報系全体では半分以下と少ないですが、女子学生で見れば9割ほど参加していました。

学校での生活について

- 木 生活についてお聞きします。サークルには入っていますか？
- 竹 いろいろ掛け持ちしていましたが、特に活動していたのは華道部です。この部では部長として活動していました。
- 小 私はMPCというプログラミングのサークルに入っていました。私も同じく部長として活動していました。
- 木 なるほど。二人とも行動力がありますね。お二人は一人暮らしをしているんですか？
- 小 最初は実家から通っていましたが、それでは親に頼りすぎてしまうと思ったので今は一人暮らしをしています。
- 木 おお、偉いですね。竹内さんはどうですか？
- 竹 私は女子寮に住んでいます。
- 木 女子寮での暮らしはどうですか？
- 竹 キッチンやリビングは共同ですが、個室で快適です。食事は友達と一緒に食べるだけでなく、料理も一緒にできて楽しいですね。
- 木 合う人にはよさそうですね。小野寺さん、一人暮らしでなにか大変なことなどありますか？
- 小 一人暮らしをしてみても、お金の管理が大変だと思ひました。家事等も自分で全部やらないといけないのも大変ですが、いい経験になっています。
- 木 どのくらい一人暮らししているんでしょうか？
- 小 3年生になった時からなので、一年とちょっとですね。
- 木 親は反対しなかった？
- 小 私に任せてくれました。今は家賃も学費も自分でやりくりしています。
- 木 おお！それはすごいですね！大変だとは思ひますが是非両立して頑張ってください。

卒業後の進路について

- 木 卒業後の進路はどうするつもりですか？
- 竹 私は大学院に進もうと考えています。
- 小 私は就職しようと考えています。SE(システムエンジニア)を目指しています。
- 木 小野寺さんはもともと興味があった分野に進もうと考えているのですね。実現できるよう、頑張ってください。竹内さんは大学院に行った後はどうしようと思ひてますか？
- 竹 意匠設計の仕事がやりたいと思ひています。建物のデザインや意匠面の設計に関わりたくひです。
- 木 設計事務所ですね。きわめて狭き門ですよ。
- 竹 そうですね。それもあって大学院でしっかり勉強して実力を付けたいと思ひています。

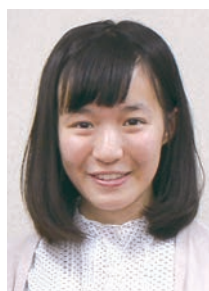
室蘭工大を受験しようとしている人達へメッセージ

- 木 本学を受験しようとしている人達に対して、こういうところが良い、とか自慢話は出来ませんか？別の言い方をすると、ここに来てよかったこととか。
- 竹 自分のやりたいことがしっかりできる点ですね。大学が町ととても密接な関係なんです。だから大学の外に出て何かをやるとうきに、市でも取り上げてくれることもあります。自分から何か行動を起こすには、とてもいい環境だと思ひます。
- 小 他の大学でも一緒かもしれないですけど、たくさんの人と会えるのでとても視野が広がる。就職についても、SEは年齢的に30歳、40歳が限界だと言われていたので悩んでいましたが、『今は女性にやさしい会社がある』という話を先輩から聞いたりできたおかげで改めてSEを目指したいと思ひました。やはり視野が広くもてるというのが素晴らしいところだと思ひます。
- 木 生活面ではどうでしょうか？
- 竹 女子高出身なので、最初は女子が少なくなるという環境の変化が不安でした。ただ、実際にはいってみると、自然と集まって楽しく遊びますし、不安を感じる必要はなかったと思ひます。
- 木 他の大学と比較すると確かに女子は少ないですね。
- 竹 そうですね。ただ他の大学だと人数が多く、先生との距離が遠いという話を聞いたことがあります。そこを比較すると室工大だと先生にすぐに顔を覚えてもらえる、学生と先生の距離がすごく近い。
- 小 私も同じことを感じました。講義の時に前の方に座っているだけですぐに名前を覚えてもらえたり。入学するときには、工学部は女子が少ないというイメージがあったけど、入学してみて、活躍している女性が多いのを見て驚きました。例えばサークル等で女子が部長を務めているというのがものすごく多いです。私も竹内さんもそうなりましたが、頑張れば人数が少ないことは関係なく活躍できる、ということを感じました。
- 木 今、お二人の話にあったように、女子学生が少ないということが逆に覚えやすくなっているという話によく聞きますね。そこは女子学生のメリットかもしれない。また、教員内でも今は力強い女子学生が多いと話題になっています。これからもその意気度ががんばってください。本日はどうもありがとうございます。

男女共同参画推進室長
こはた ゆきひろ
木幡行宏
くらし環境系領域 教授



建築社会基盤系学科 4年
たけうち かすみ
竹内香澄
さん



情報電子工学系学科 4年
おのでら なるみ
小野寺愛実
さん



らんらんプロジェクトとは…



室蘭工大では、学生の皆さんが持っている自主性、創造性を思う存分発揮できる機会を提供し、より充実した学生生活を送ることができるよう、平成13年度に「らんらんプロジェクト」を創設し、以後、毎年プロジェクトを募集し、選ばれた学生の皆さんに活動経費を支援しています。

平成26年度に採択された14件のプロジェクトのうち、「鳥人間コンテスト出場を目的とした設計・製作とそのテストフライト」「そのテストフライト」、「まちなかライブラリー」をご紹介します。

鳥人間コンテスト出場を目的とした設計・製作とそのテストフライト

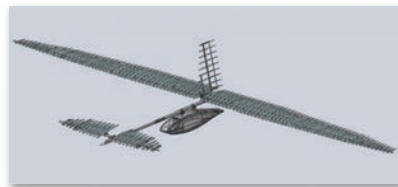
航空研究会は、読売テレビ主催の「鳥人間コンテスト」に出場すべく活動している団体です。今回のプロジェクトは、機体の製作方法やテストフライトの方法等を検討することが目的でした。製作している機体は、全長6m、全幅2.0mの滑空機です。プロペラがついていないため、高所からの位置エネルギーを利用して飛行します。

機体製作は部員全員が初めての経験であり、予定通りに進まず何度も見直しを行いました。工作が不慣れなため初めは綺麗に作る事ができませんでした。そのため他団体を見学し、製作方法を教えてもらいました。また、設計側と製作側で意思疎通がうまくいかず、製作に大きなミスが生じることもありました。話し合いの結果、製作開始時に設計者が立ち会う、事前に製作側が設計を見直すことにする等、連携がうまくいかなかった点を改善しました。また技術面では、他団体の製作方法を参考にすることで解決策を導き出

しました。このようにして無事機体を完成させました。

滑空機でテストフライトを行うことは鳥人間界では初の試みであり、自分たちでその手法を確立しなければなりません。様々な検討をした結果、機体を台車にのせ、人の力で引っ張るという方法になりました。実際はテストフライトを飛行場で実施するための練習であり、付近の公園で実施しました。課題であった機体の運搬方法の検討とそれに要する時間の調査や、機体の組立方法の確認、実際飛行場で行うリハーサルが予定通りでき、満足のいく結果となりました。

大きなものづくりは、チームでやることの大切さや限られた時間・費用の中で如何にして目的を達成するか等、今までできなかった経験ができ非常に勉強になりました。今後は、製作技術の改善と製作精度の向上をしていきたいと思います。



まちなかライブラリー

私たち「まちなかライブラリー」は一昨年度、若者世代の利用によるまちなかの賑い創出を目的として設立し、室蘭市中島地区商店街にあるコミュニティスペース中島商店会コンソーシアム「ほっとな〜」で、雑誌の閲覧スペースの整備等を行ってきました。学生の利用も見られるようになり、昨年度は多世代交流を目標として子育て世代のまちなかの利用促進のため、子供とそのお母さんを対象とした企画を提案しました。

具体的には、「ほっとな〜」での子供の居場所の製作および設置、子供向けの絵本の設置を行いました。子供の居場所の製作にあたっては、子供が利用しやすく、楽しく遊べるようにダンボールを使用して、簡単な構造としました。実施期間中に施設管理者および利

用している子供の意見を取り入れ、デザインを変更しました。デザイン変更にあたっては扱いやすさよりも見た目の楽しさを重視し、時間をかけながらも、愛着をもっていただくことを心がけました。絵本の選定にあたっては、本学ビブリオバトル部の意見を取り入れながら、4冊を選定しました。絵本は「ほっとな〜」内で開催されたビブリオバトルでも取り上げられました。このような企画の実施により、子どもとお母さんにまちなかを楽しんで利用していただくことで一昨年度より重視している若者世代のまちなか利用と合わせて多世代交流によるまちなかの賑い創出のきっかけづくりになったのではないかと思います。



メンデレーエフとUCG

環境科学・
防災センター長

板倉 賢一 教授



石炭の地下ガス化（UCG：Underground Coal Gasification）を最初に提案したのは、周期律表でお馴染みのドミトリ・イヴァーノヴィチ・メンデレーエフと言われている。少なくとも、1888年頃の彼のノートにこの発想が記されているらしい [1]。

一般的に UCG は、地下の炭層にボーリング孔を2本穿ち、一方から空気等の酸化剤を送り込み、炭層内にガス化燃焼炉を設け、生産ガスや熱を片方のボーリング孔から回収する技術である。従って、人が地下に入って採炭したり、表土を大規模に剥ぎ取って採炭する必要もない。そのため、労働者の代表として旧ソ連のレーニンが石炭活用のために積極的に UCG を採用し、研究も進展した。しかし、安い石油が台頭して、除々に関心が薄まった。

近年、環境問題とボーリング技術の向上により、UCG が再び注目されるようになった。UCG では、地下から石炭の燃焼ガスだけを採取するため、坑内採炭に比べ安全で、省エネルギー（地表設備もシンプル）、かつ灰や残滓を地上に出すことがないため、低環境負荷な石炭活用技術と言われている。

これまでに UCG の実証試験が世界中で行われ、一部操業しているが、未解決の問題もある。いずれも炭層の深度が浅い場合であるが、ガス漏洩、地下水汚染、地盤沈下などの炭層、岩盤の破壊に起因した問題である。

環境科学・防災研究センターの UCG プロジェクトでは、文部科学省の概算要求特別経費「大学の特性を生かした多様な学術研究機能の充実」や科学研究費補助金（基盤 B、A）、外部競争的資金や北海道三笠市等の支援を受けて、北海道大学、企業、NPO 等と連携して、石炭の破壊制御に注目した技術開発、北海道型の高効

率なコンパクト UCG 技術の確立を目指して研究を進めている。三笠市幾春別町にある室蘭工業大学未利用石炭エネルギー研究施設（写真1）を拠点に、図1に示すような小規模なフィールド実験を準備し、国の許可を得て直ちにガス化実験を行う予定である。手付かずの炭層に8本のボーリング孔を設け（そのうち7孔は破壊監視、種々の環境計測孔）、1孔を用いた同軸型 UCG を実施する。この研究は、破壊監視・制御を中心とする「高度 UCG システム開発」（板倉教授、濱中特任助教）、生産ガスを効率よく無害化、分離、貯蔵する「生産ガス・熱の高効率活用」（佐藤（孝）教授）および大気、地表、地中、地下水等を監視、評価する「環境監視・評価」（濱教授）の三つのサブプロジェクト（SP）で構成されている。既に生産ガス・熱の高効率活用 SP ではプラズマ放電によるガスの無害化を確認しており、環境監視・評価 SP では各種センサを現場に設置し、UCG 計測車（Deep Green 号：写真2）と大学のサーバーを經由して、インターネット上で現地の様子、計測値を閲覧できるシステムを構築した。また、UCG 安全管理対策マニュアルも作成している。

ある調査 [2] によると、我が国の地下 6000m までには、5000 億トンの石炭が眠っているという。すなわち、日本の地下深部は石炭だらけということになる。従来の方法では採炭できないという理由で、無視されてきた。しかし、最新のボーリング技術を用いれば、これらの UCG が可能であり、深部ゆえに炭層・岩盤破壊の影響も緩和される。現在の我が国の石炭消費量に換算すると、この量は、2800 年分に相当する。活用しない手はない。

<参考文献>

- [1] <http://ja.wikipedia.org/wiki/ドミトリ・メンデレーエフ>
- [2] 株式会社環境総合テクノス
「二酸化炭素炭層固定化技術開発
成果報告書,2004.10」



写真1
室蘭工業大学三笠未利用石炭エネルギー研究施設
(2012.7)



写真2 計測車（Deep Green 号）と現場の様子

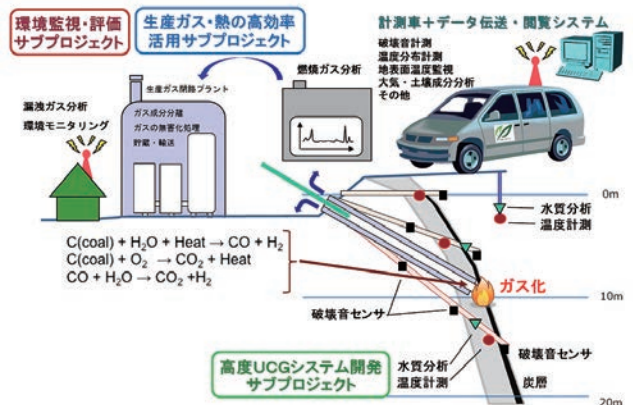


図1 サブプロジェクトと計測項目

キャリア・サポート・センターでは、各企業が求める人材の条件を把握するとともに、学生一人ひとりの個性や適性を理解し、双方に最適なマッチングを実現するための支援体制を整備しています。「キャリア教育」、「キャリアカウンセリング」、「インターンシップ」、「企業セミナー」を4つの柱に、センタースタッフと各学科の就職担当教員とが連携して企業と学生の良好な出会いをバックアップしています。

キャリア教育

「フレッシュマンセミナー」(1年次)

入学1年目は、これまでとは違う「学び」のスタート。自分で論理の構築を行う厳しさと楽しさ、専門性と社会とのかかわりなどについて学びます。

「キャリア・デザイン」(2年次)

社会の構造変化って何？脱工業化、ホストモダン、少子高齢化、…仕事、職業の観点から、企業や社会または求められる人材像の変化について学びます。

「キャリア・ガイダンス」(3年次、M1)

3年次になると就職のためのサポートもより具体的、実践的に。自己分析、面接時のマナーなど先輩学生たちのアドバイスが得られる懇談会も開催。



▲熱心に採用担当者の説明を聞く学生

キャリアカウンセリング

進路に対する様々な悩みや心配事についての相談に応じています。お気軽に何でも相談してください。

インターンシップ

現場の経験は、言葉では表現できない知識を学生に与えます。仕事の厳しさと楽しさに触れ、「仕事ってこういうことだったのか！」と学生が自らの膝を打つとき、顔つきが変わります。

企業セミナー等

現代の最前線をいく企業の方々に来ていただき最新の業界動向や企業動向についてお話をいただきます。

業界研究会 セミナー等

12月～3月の間に企業の方々に来ていただき最新の業界や企業の動向等についてお話しいただきます。

木曜企業 セミナー

4月～7月までの毎週木曜日午後1社～8社の企業の方々に参加されます。



▲セミナーでの説明を聞く学生

キャリア・サポート・センター»大学会館1階

各種就職情報資料や参考図書の開覧のほか、就職情報をインターネットで検索できるパソコンも用意しています。

- ・社会的動向の把握とその情報提供 (キャリアデザイン、ガイダンス他)
- ・学生と企業の出会いの場作りへの支援
- ・企業に関する情報共有の仕組み作り
- ・求人企業開拓支援
- ・一般的な求人の受付と求人情報の提供
- ・応募書類作成支援



TOPICS

留学生交流推進懇談会及び留学生交流会

3月2日(月)に蓬峯殿において留学生交流推進懇談会及び留学生交流会を開催しました。

交流推進懇談会では、室蘭や登別の留学生支援団体等の出席のもと、本学から我が国の留学生施策や本学の留学生受入れの取組みについて現状説明を行いました。その後、地域における留学生交流の推進について意見交換を行い、今後の交流事業に生かしていくこととしました。

交流推進懇談会終了後は、帰国・就職等で室蘭を離れる留学生の送別会も兼ねて、学長主催の留学生交流会を開催しました。この交流会には留学生、教職員、日本人チューター学生等学内関係者の他に、留学生の家族や地域の支援団体等の学外関係者合わせて約200名が出席しました。

交流会では、留学生によるダンスやバンドなどのアトラクションが披露され、和やかに交流の輪を広げるとともに、会場のあちこちで、本学を去る留学生を囲み別れを惜しむ姿が見受けられました。

また、最後に1年間の留学生の交流活動が上映され大きな拍手のなか閉会となりました。



合同企業セミナー

3月4日(水)～7日(土)及び9日(月)～12日(木)の8日間にわたって合同企業セミナーを開催しました。

本セミナーには、北海道はもとより福岡、兵庫、大阪、岐阜、愛知、富山、静岡、東京等から建設業、製造業、食品業、ITサービス・ソフトウェア業を中心に244社に参加いただき、会社の事業内容、海外への展開、次年度の採用情報などを説明されました。

厳しい就職戦線の中、リクルートスーツを着た学部3年生、博士前期課程1年生延べ6,200人(1社平均25名参加)の学生が、採用担当者の説明にメモを取りながら熱心に聞き入っていました。

期間中、セミナー終了後に大学会館多目的ホールにおいて、学長、理事、副学長、就職担当教員の参加を得て情報交換会が行われました。学生は、企業の採用担当者やOB、採用内定者と懇談を行い、説明会では聞けなかった就職活動に関わる情報などを中心にさまざまな話を聞いていました。



フィジカルヘルス・フォーラム

3月19日(木)、20日(金)の2日間にわたって第17回フィジカルヘルス・フォーラムを開催しました。

本フォーラムは、国立大学法人保健管理施設協議会のフィジカルヘルス委員会が主催し、本学が共催したもので、国立大学の保健管理施設に所属する医師や看護職員など約80名が参加しました。

19日にはカルト勧誘、睡眠障害、インターネット依存をテーマとした三つの講演が、20日は教職員の職場リワーク(休職者の職場復帰サポート)をテーマとした一つの講演と、大学における結核対応に関するシンポジウムがあり、教職員や学生のフィジカルヘルスケアについて活発な意見交換がなされました。



情報メディア教育センターが ISMS と BCMS の国際認証を同時取得

本学の情報基盤を支え、また情報基礎教育や学内情報化を推進している情報メディア教育センターが、3月27日（金）に情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）と事業継続マネジメントシステム（BCMS）の国際認証を取得しました。

ISMS は組織が持つ情報を盗難や紛失などから守り、また安定して利用できるようにするための管理方法です。また BCMS は災害などのトラブルが発生しても、極力、活動が継続できるようにするためのものです。いずれも国際標準化機構（ISO）で国際規格が定められており、これらの認証を取得したことは情報セキュリティ及び情報に関する事業継続性が国際レベルにあることが認められたこととなります。全国の大学でこれらを同時に取得したのは初めてであり、安全かつ安定した情報の活用を通じて情報面からも大学のさらなる発展が期待されます。



吉田文部科学省企画官が本学を視察

吉田文部科学省高等教育局国立大学法人支援課企画官が、4月21日（金）に本学を視察されました。

空閑学長ら役員と本学におけるさまざまな取組状況について意見を交わされました。空閑学長らと懇談を行った後、環境調和材料工学研究センターを視察され、平井センター長から概要説明を受けられ、ものづくり基盤センターでは、清水センター長が説明を交えながら実習室、多目的加工室、機械加工室、溶接室などを見学されるとともに、清水センター長が推進しているシッパーサイクルの活動状況について説明を受けられました。さらに、航空宇宙機システム研究センターでは、超音速実験機オオワシ2縮小模型や GG-ATR エンジン用インテークの試験が行われている「吸込式超音速風洞試験設備」を視察され、また東野センター長から概要説明を受けられました。



北海道知事と女子学生との懇談会

5月13日（水）に高橋はるみ北海道知事が地域訪問の一環として本学を訪問され、女子学生との懇談会が開催されました。

懇談会は、「理系女子学生の社会進出について」をテーマに理系女性の働く場をどの様に北海道内に作っていくべきか、あるいは理系女子学生がどの様に思っているかについて意見を伺うことを目的としたものであり、高橋北海道知事及び女子学生5名のほか、田邊北海道胆振総合振興局長、飛田北海道総合政策部地域づくり支援局長、青山室蘭市長及び空閑学長が同席し、工業大学への志望動機、本学を選んだ理由及び卒業後の進路希望などについて意見交換が行われました。また、空閑学長から本学における女子学生の活躍や女子学生に対する支援状況について説明があり、青山室蘭市長から市内のものづくり企業における理系女性の増加及びそれに伴う市への要望についての紹介がありました。

最後に高橋北海道知事から女子学生にお礼と温かい激励の言葉をいただき、閉会しました。



公開講座・ 室工大サイエンススクールについて

室蘭工大では大学の施設を開放して、広く地域の方々を対象に、生涯学習の一環としてさまざまなテーマによる参加・体験型の公開講座や、地域の小・中学生を対象に、日常の授業を離れて「科学技術」や「ものづくり」に興味や関心をもってもらうための体験型プログラムとして室工大サイエンススクールを実施しています。

実施内容や開催時期については、大学ホームページに掲載していますので、是非、一度ご覧ください。



▼公開講座 HP

http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/r-so/extension_lecture.html

▼室工大サイエンススクール HP

http://www.muroran-it.ac.jp/guidance/r_so/ss_mit.html

「室蘭工大 未来をひらく技術と研究」

室蘭工大では、本学をさらにご理解頂くため環境やエネルギー関連の研究を紹介した、「室蘭工大 未来をひらく技術と研究」を刊行いたしました。

本書は、本学でどのような研究が為され、それが社会にどのように還元されるのか、そしてそれをいかに平易な言葉でご紹介できるかを考え、編集したものです。

また、本学の研究につきましては、室蘭工業大学研究者データベース及び室蘭工業大学研究シーズ集においてもご紹介しておりますので、併せてご覧ください。

▼研究者データベース

<http://rd-soran.muroran-it.ac.jp/search/index.html>

▼大学研究シーズ集

<http://www.muroran-it.ac.jp/crd/seeds/seeds.html>



国立大学法人 室蘭工業大学 編
A5版 / 232 ページ
1,620 円 (本体 1,500 円 + 税)
北海道新聞社 刊
ISBN978-4-89453-745-3

室蘭工業大学 教育・研究振興会のご案内

室蘭工大には、「教育・研究振興会」という組織があり、毎年、様々な学生支援活動を行っています。教育・研究振興会の活動は、教職員、学生の保護者、企業、卒業生、一般の方々からの募金により支えられています。

現在、教育・研究振興会では、「成績優秀者への奨励金」「困窮学生のための臨時的生活支援」「国際交流活動支援」「博士課程学生への支援」を行っており、より多くの学生を支援するため、今後も事業を継続して行ってまいりますので、ご支援の程よろしくお願いいたします。

教育・研究振興会への募金や支援事業の報告（振興会だより）は、以下のホームページからご覧いただけます。

▼室蘭工業大学教育・研究振興会 HP

<http://www.muroran-it.ac.jp/syomu2/kkdhinkou/index.html>

附属図書館のご案内

当館は、室蘭工大の学生・教職員のための図書館ですが、学外の一般の方も利用できます。

当日の利用のみを希望される場合は、身分証（免許証、学生証等（国、地方公共団体、学校法人が発行したもの））をご提示ください。また、図書館利用証を作成しますと、当館資料の貸出もできます。利用証作成の手続きについては、当館ホームページをご覧ください。

なお、試験期間につきましては本学学生の利用を優先するため、座席のみのご利用はご遠慮いただいております。

当館の最新情報、開館日・開館時間、利用方法、図書の検索等はウェブサイトから、新着図書の紹介や各種企画展示・イベント等は Facebook と Twitter から発信しています。

▼附属図書館 HP

<http://www.lib.muroran-it.ac.jp>

▼附属図書館 Facebook

<http://www.facebook.com/MuroranIT.lib>

▼附属図書館 Twitter

http://twitter.com/MuroranIT_lib

平成 27 年 7 月 31 日発行 第 52 号

室蘭工業大学広報室 編集

〒050-8585

室蘭市水元町 2 7-1

TEL/0143-46-5024

E-mail/koho@mmm.muroran-it.ac.jp

▼HP URL

<http://www.muroran-it.ac.jp>



室蘭工業大学 HP